

学生支援の現場から

◆関東学院大学

「人になれ 奉仕せよ」 学生が作る学生支援

山崎 浩一

(関東学院大学 学生支援室 室長)

一 基本姿勢

本学の教育上の理念である校訓「人になれ 奉仕せよ」にのっとり、学長方針「学生本位の大学作り」の具体化として、二〇〇四年四月に「学生支援室」が金沢八景キャンパスに設置された（現在、すべてのキャンパスに設置）。学生生活上の問題と修学上の問題が一箇所で解決しやすいように創設された学生支援室では、学生が立ち寄りやすい雰囲気作りを力を入れた。支援スタッフ（教職員、非常勤、大学院生や先輩学生）との協働経験の場も作りながら、在学中だけでなく入学前から卒業後まで、長期間にわたって、生活上および修学上の支援を行うことを目指している。

二 現状

価値観の多様化、時代・社会状況の変化もあり、相談内容もさまざまなものがある。キャンパス案内や大学近隣の商店街情報、アルバイト・サークル紹介などのちょっとしたこと、履修相談、資格取得、性格・対人関係などかなりの時間を費やす複雑な相談、さらにカウンセラーなどの専門的なアドバイスを必要とする内容もある。このことから、他部署との連携が何よりも重要なことになっている（図1）。修学上の支援では、過去の学び・現在の学び・未来の学びの三つの要素を総合的にサポートし、大学で何を学ぶべきか、大学で何を身に付けるべきかを教職員スタッフと一緒に考えている。

二〇〇四年度の開室以来、学生の利用件数は年毎に飛躍的に伸び、特に居場所および学習・自習としての利用増加が顕著である（図2）。学生支援室の存在が多くの学生に認知されたことにより、教職員および先輩学生と学生との信頼関係や、同じ大学内の仲間としての関係作りができがりがつつあると考えている。延べ約四万二〇〇〇人の利用学生の声（意見・要望）から、「大学に何を求めているか」「教職員に何を期待しているか」が聞こえてくる。この学

生からの声がより良い学生支援をすすめる力となっている。

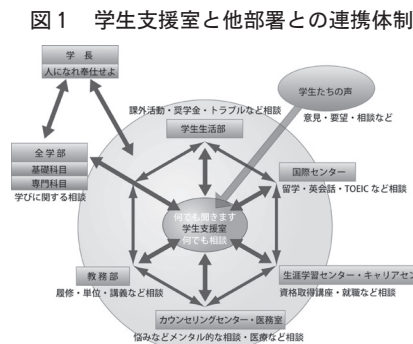
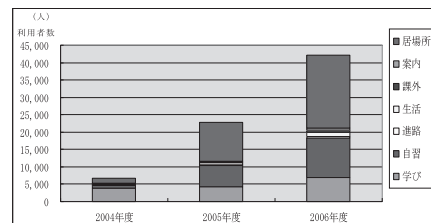


図2 学生支援室の利用状況(2004~2006年度)



三 展望

ピアサポーター（先輩学生が後輩にアドバイス）制度、障がい学生支援、修学支援、学生生活支援など、学生に対するさまざまなアプローチによって、退学者も二〇〇二年度の五・四％から二〇〇六年度の三・六％と減少傾向にある。しかしながら、ノートテイクおよびメンターの養成、

個人情報共有など課題も残っている。二〇〇七年四月に学生支援室独自の新生アンケート調査を実施したが（回収率八九％）、今後は全学生を対象とし継続的に実施したいと考えている。多くの学生の声やアンケート分析などを活かし、具体的な学生支援プログラムを作りあげたい。「悩みを抱えつつも、相談に踏み切れない学生を見つけ出すこと」が、今後の大きな課題である。教職員スタッフが人に対する情熱を失わない姿勢を原点とし、学生に歩みよっていききたい。すべての学生には、大学での自身の存在感を感じ取ってほしいと願っている。



相談風景